令和8年度　全国学力・学習状況調査結果

三原市教育委員会

1　調査の概要

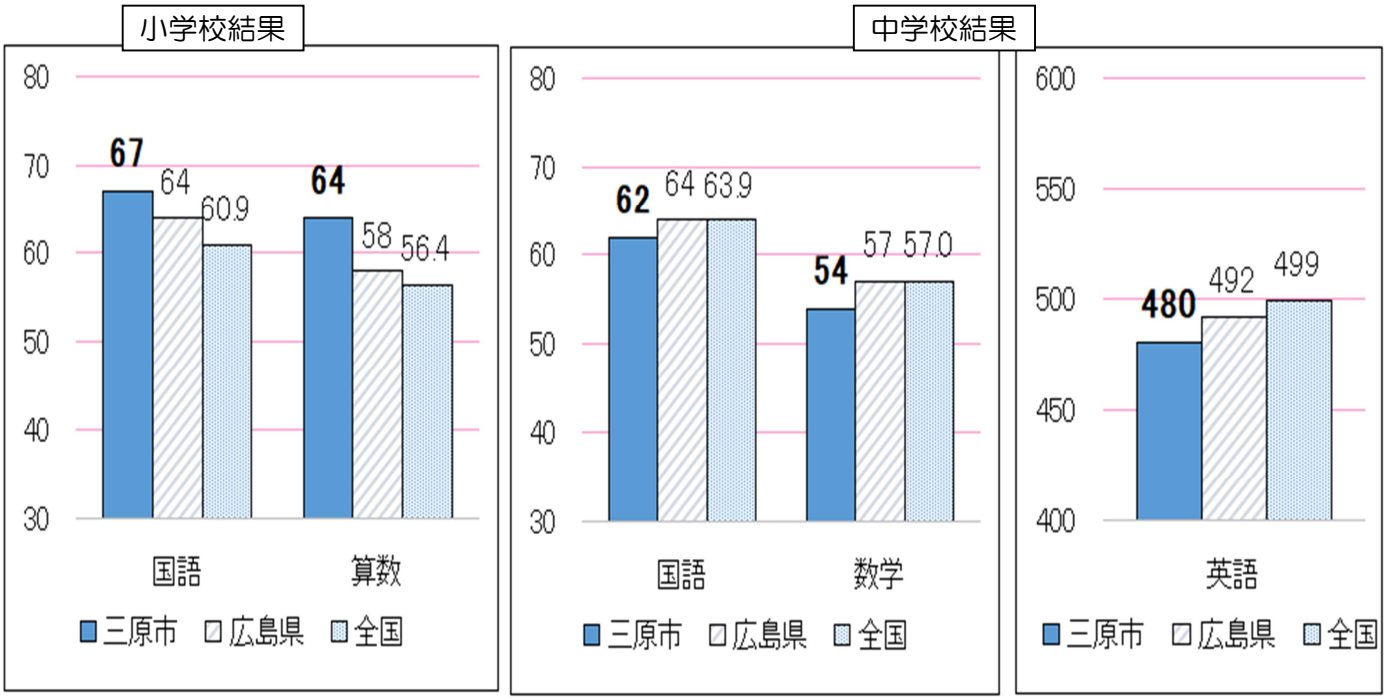
（1）調査実施期日　令和8年4月 23 日(木)

（2）対象及び教科　小学校第6学年全児童　国語、算数
　　中学校第3学年全生徒　国語、数学、英語

（3）教科に関する調査の結果

校種	教科	三原市	広島県（公立）	全国（公立）
小学校	国語	67	64	60.9
	算数	64	58	56.4
中学校	国語	62	64	63.9
	数学	54	57	57.0
	英語	480	492	499

（小学校結果及び中学校国語、数学は平均正答率　中学校英語は平均IRTスコア）



○小学校は、国語、算数において、平均正答率が全国、広島県を上回っている。
○中学校は、国語、数学において、平均正答率が全国、広島県を下回っている。
　英語において、IRTスコアが全国、広島県を下回っている。

※IRTスコアとは、生徒の正答・誤答が問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論である。

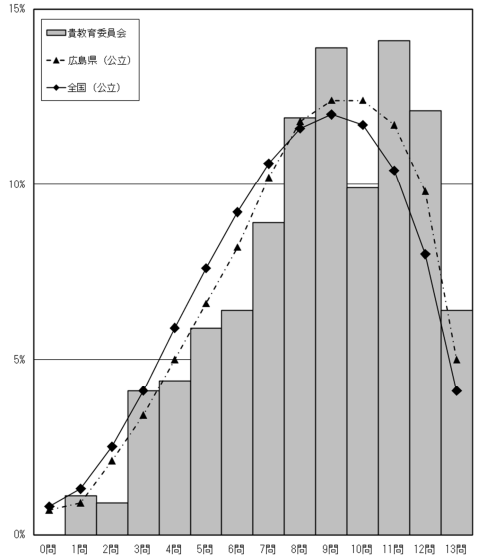
2 教科に関する調査結果

（1）小学校国語

結果の概要

○平均正答率は 67%で、全国平均及び広島県平均を上回っている。
○昨年度課題であった情報の扱いに関する事項は、県平均を上回っており、改善が見られる。
○記述式問題について、広島県平均を上回っている。また、無答率が広島県平均よりも低い。

【正答数分布グラフ】



【内容別平均正答率】

	平均正答率(%)		
	三原市	広島県	全国
全体	67	64	60.9
言葉の特徴や使い方に関する事項	71.2	70.2	66.8
情報の扱い方に関する事項	60.7	54.9	52.3
我が国の言語文化に関する事項			
話すこと･聞くこと	69.1	67.8	65.8
書くこと	54.0	48.3	45.7
読むこと	71.9	69.0	65.9

正答率県差下位２問

○大問4 二 正答率 32.4%（広島県 36.4%、全国 35.2%）
語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる問題

○大問3 一 正答率 34.1%（広島県 56.8%、全国 55.5%）
目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題

改善のための方策

○自分の考えを、既有の知識や体験、引用した語句や文などの根拠に基づいて表現する活動を設定する

本や文章などから必要な語句を引用する場合、引用する目的を明確にすること、原文を正確に引用すること、引用部分が適切な量になることなどを指導する。

既有の知識や引用などの事実を並べるだけでは自分の考えを相手に伝えることはできない。自分の考えとどのように関連しているかを明確にし、表現の仕方を工夫できるよう指導したり、R80 を使って「知識」の再構築を行ったりする。

○目的に応じて、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする活動を設定する

文章を漠然と読むのではなく、読む目的を明確にして必要な情報を探し出すことが必要である。そのために、書き手の述べたいことを知るために読む、自分の表現に生かすために読むなど、読む目的を設定する。

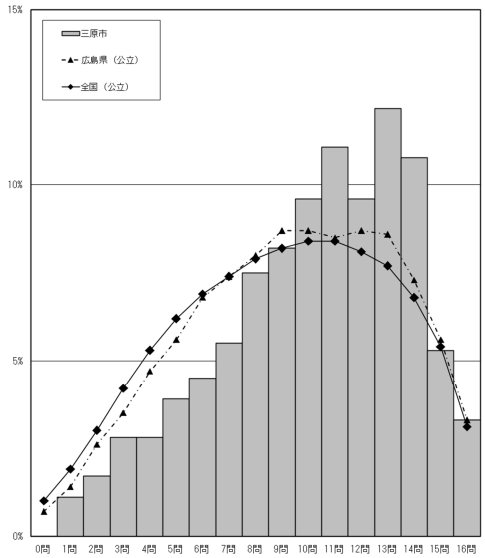
必要な情報を見付けるために、中心となる語や文を選び出す、文章の事例と自分の経験を結び付けて整理する、それぞれの情報の関係（順序の関係、考えと理由や事例の関係、全体と中心の関係など）を整理し、再構成するなどの視点が持てるよう指導する。

（2）小学校算数

結果の概要

○平均正答率は 64%で、全国平均及び広島県平均を上回っている。
○領域別では、全国平均及び広島県平均を上回っているが、「変化と関係」の平均正答率が 47.7%、「データの活用」の平均正答率が 53.9%と他の領域と比較して低い状況である。

【正答数分布グラフ】



【領域別平均正答率】

	平均正答率(%)		
	三原市	広島県	全国
全体	64	58	56.4
数と計算	68.5	62.8	55.3
図形	63.6	57.9	55.3
測定	80.9	77.6	78.1
変化と関係	47.7	41.9	41.1
データの活用	53.9	51.1	48.6

正答率の低い問題　　県平均との差が大きい問題

○大問4（3） 正答率 16.9%（広島県 17.7%、全国 17.9%）
二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題

改善のための方策

○授業全般において以下のような場面を設定する

複数の表現（言葉・式・図）を相互に行き来させる場面を設定する。例えば、式を立てた後に「この式の数字は図や文章のどこを表しているか」、逆に「図のこの部分は式でどう表されるか」を相互に説明させる。

「何を基準1と見ているか」を常に問いかける場面を設定する。例えば、割合や倍の学習に限らず「ここで1と見ているのはどれ？」「何をもとにしている？」と問いかける習慣をつけることで、基準量と比較量の関係性を捉える視点が養われる。

○各領域での問題解決場面において、以下のような場面を設定する

関数領域において、問題解決場面では、表・式・グラフを関連付けて考える活動を設定する。また、問題文を基に言葉の式に表したり、表された式の意味を児童が説明できるようにする。さらに、基準量、比較量、割合の関係が理解できるよう視覚支援や体験を伴った活動の場を設定する。

図形領域において、基本概念の「意味」が理解できるようにするため、ことばの意味の習熟を図る場面を設定する。

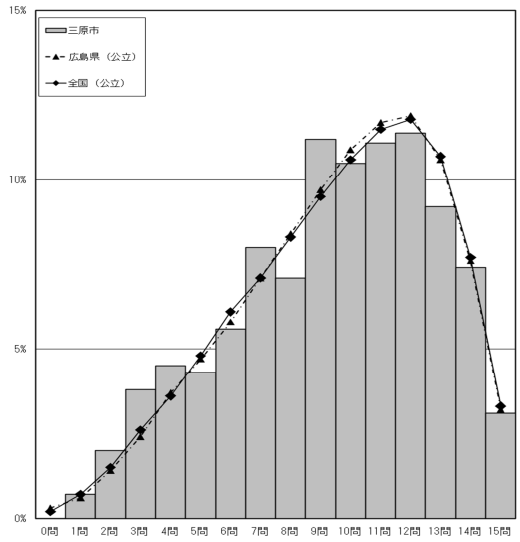
データの活用領域において、二次元表から条件に合う数を抽出し、「選んだ理由」を説明する活動を設定する。例として「条件Aを満たすが条件Bは満たさない数はどれか」といった問いを設定し、表の構造（縦・横の項目）を示しながら「なぜその数値になるのか」を文章で書かせる。

（3）中学校国語

結果の概要

○平均正答率は 62%で、全国平均及び広島県平均を下回っている。
○「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、他の内容の平均正答率と比較して低い。更に、広島県平均との差も大きい。
○「読むこと」では、読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめることに誤答が多い。擬態語が表す様子について、自分の考えを書くことはできているが、本文中の言葉を使って書くという条件に沿うことができていない。条件である「擬態語の効果」を文章中から読み取ることに課題が残る。

【正答数分布グラフ】



【領域別平均正答率】

	平均正答率(%)		
	三原市	広島県	全国
全体	62	64	63.9
言葉の特徴や使い方に関する事項	59.0	62.1	63.0
情報の扱い方に関する事項	70.8	70.4	70.4
我が国の言語文化に関する事項			
話すこと・聞くこと	64.1	64.2	63.9
書くこと	66.3	68.1	67.4
読むこと	60.0	61.1	59.7

正答率の低い問題　　県平均との差が大きい問題

○大問3　一　正答率　34.1%（広島県　39.1%、全国　39.8%）
　文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる問題

○大問4　二　正答率　32.4%（広島県　36.4%、全国　35.2%）
　語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる問題

改善のための方策

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」と表現や読解との往還する活動を設定する

　自分の文章を推敲する課程で助詞や助動詞を書き換えて比較し、自分の伝えたいニュアンスがより伝わる表現を話や文章の中で使えるよう指導する。

　読解において、言葉の辞書的な意味を調べるだけでなく、文脈上の意味を捉えて書き手の意図を考えたり、類義語に置き換えて読み文章の印象の違いをを話し合ったり、語彙が豊かになるよう指導する。

○文章を読んで理解したことを、他者に説明したり、自分の読み方を振り返ったりする活動を設定する

　自分の考えを確かなものにするためには、読んで理解するだけでなく、他者との共有を通して、他者の考えやその根拠を知り、改めて自分の読み方を振り返ることが重要である。そのために、文章を読んで得た知識や考えを、身近な場合に言い換えてまとめたり、報告し合ったりするよう指導する。

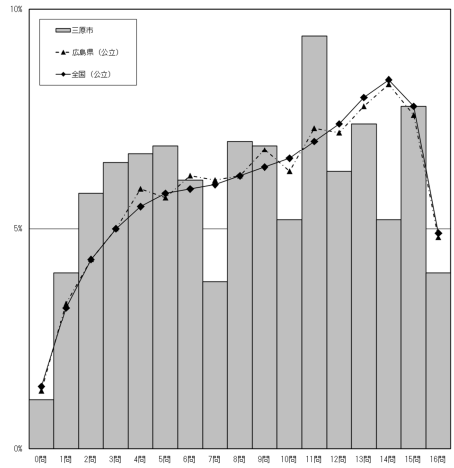
　他者との共有を通して、自分が文章をどのように捉え精査・解釈したのか振り返ったり、自分の考えと対比したりすることで新たな視点をもち、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう指導する。

（4）中学校数学

結果の概要

○平均正答率は 54％で、全国平均及び広島県平均を下回っている。
○全ての領域において、全国平均及び広島県平均を下回っている。

【正答数分布グラフ】



【領域別平均正答率】

	平均正答率(%)		
	三原市	広島県	全国
全体	54	57	57.0
数と式	66.2	68.1	67.8
図形	43.2	47.8	48.7
関数	52.2	54.7	54.8
データの活用	49.4	52.9	53.5

正答率県差下位２問

○大問8（2）正答率 40.4%（広島県 45.2%、全国 46.1%）
筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題

○大問7（2）正答率 33.6%（広島県 36.0%、全国 33.9%）
数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

改善のための方策

○授業全般において以下のような場面を設定する

根拠と等しいことや言えることを対応させて説明する場面を設定する。例えば、生徒に根拠と結論を書かせた後、ペアで「主張に対する数学的根拠（定理、数値、グラフの特徴など）が抜けていないか」を確認し合う活動が考えられる。

課題解決の結果を元の文脈に戻す場面を設定する。例えば、方程式の解や関数の交点、確率の値が出た際に、「結局どういうこと？」と問いかけ、日常の言葉で結論をまとめさせる活動が考えられる。

○各領域での問題解決場面において、以下のような場面を設定する

データの活用領域では、2つの度数分布多角形を重ね合わせ、形状の特徴（山・裾野・交点）を根拠に判断理由を説明する場面を設定し、度数分布多角形の特徴を具体的に引用して理由を答えさせる活動が考えられる。

関数領域では、現実に近いプランの比較等を提示し、数学的根拠をもって最適な選択を提案する場面を設定し、最適な解決法を、グラフの交点や傾き等を用いて他者に説明する活動が考えられる。

図形領域では、仮定から結論への筋道を段階的に論証する場面を設定し、仮定から結論まで論理の段階を踏んで根拠を明確にし成り立つ事柄を記述・証明する活動が考えられる。

（5）中学校英語

結果の概要

○IRTスコアは 480 で、全国及び広島県のスコアを下回っている。
○広島県に比べて、IRTバンド1の生徒の割合は 1.8 ポイント、IRTバンド2の生徒の割合は 5.5 ポイント高く、下位バンドの割合が高い。

【IRTバンド分布】

	1	2	3	4	5
三原市	6.5	35.0	35.2	17.8	5.5
広島県	4.7	29.5	40.6	20.5	4.8
全国	4.7	28.2	38.4	22.7	5.9

【平均IRTスコア】

三原市	480
広島県	492
全国	499

※IRTバンド
各生徒に対して出題された問題の正誤状況に基づき、総合的に推定されるもので、1～5の5段階に区切ったもの。3を基準として、5が最もスコアが高い。

正答率県差下位２問（共通問題）

○大問 11（1）正答率 51.2%（広島県 58.2%、全国 58.9%）
与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く問題

○大問 11（2）正答率 39.6%（広島県 49.7%、全国 52.7%）
与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く問題

改善のための方策

○まとまった内容の英文を読み、要点を整理する活動を設定する
一定の文量のある英文を読み、要点を読み取る活動を行う際に、日常的な話題だけでなく、社会的な話題を扱ったものを読む機会を設定するとともに、接続詞に注目させ、大事な部分に線を引いたりしながら、筆者の伝えたい内容を掴むための方法を身に付けさせていく。

○理由や感想、自分の考え表現する場を設定する
英語を用いて相手に伝える際に、「目的」・「場面」・「状況」の設定を明確にし、英語で伝える必然性を与え、自分の考えを、理由や感想を交えながら、生徒が主体的に表現しようとする課題を設定していく。

○既習事項を活用し、学んだことを繰り返し想起させる場を設定する
過去に体験したことやこれからの予定、自分の考え、感想を表現する場を創出することで、既習事項を想起させ、時制への意識を定着させる場を設定していく。

3　質問調査に関する調査結果

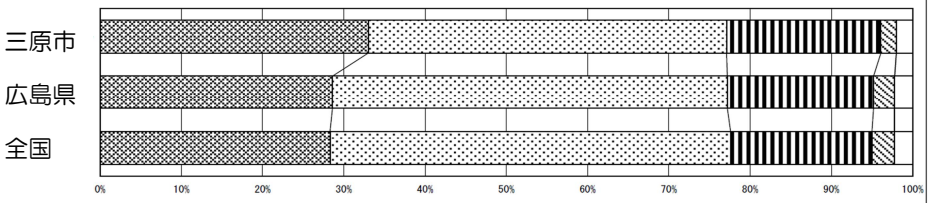
（1）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の状況

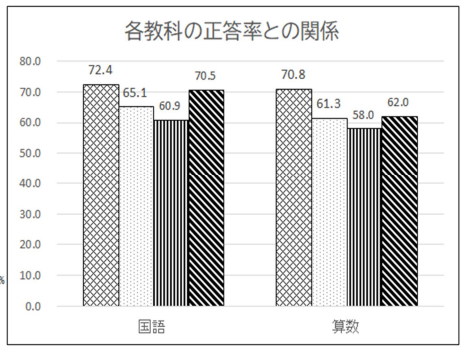
〇主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒の割合は、小学校は全国平均及び広島県平均より低いが、中学校は高い。
〇個別最適な学びになっていると感じている児童生徒の割合は、全国平均及び広島県平均より高い。
〇協働的な学びになっていると感じている児童生徒の割合は、全国平均及び広島県平均より高い。

主体的・対話的で深い学び

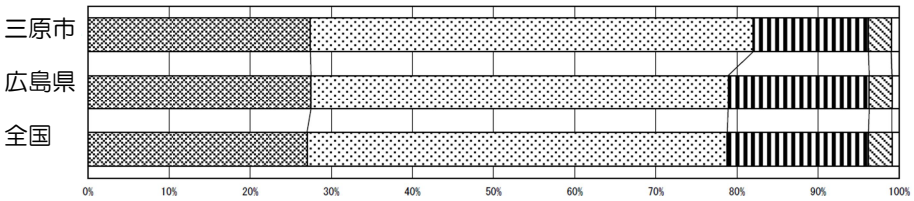
5年生までに（1、2年のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

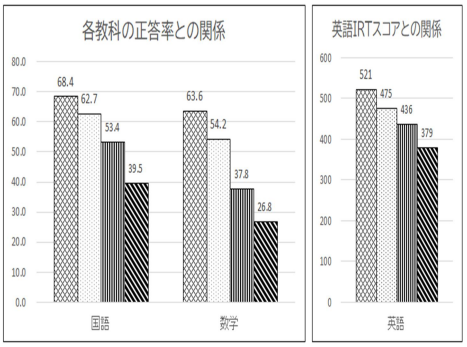
【小学校】「当てはまる」33.0%（県比＋4.4pt　全国比＋4.7pt）
肯定的回答　77.1%（県比－0.1pt　全国比－0.5pt）





【中学校】「当てはまる」27.4%（県比－0.1pt　全国比＋0.4pt）
肯定的回答　81.9%（県比＋3.0pt　全国比＋3.1pt）

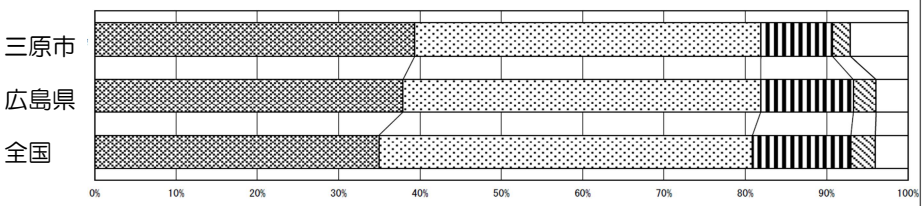


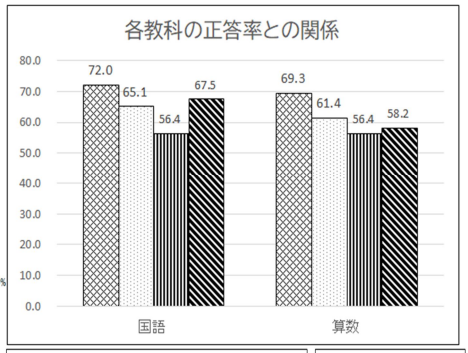


個別最適な学び

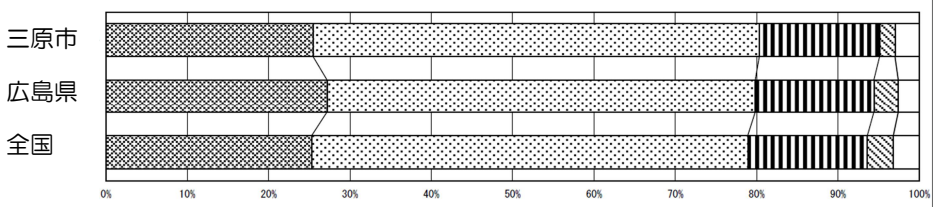
5年生までに（1、2年のときに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

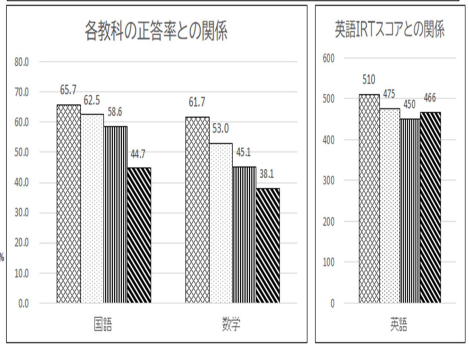
【小学校】「当てはまる」39.4%（県比＋1.5pt　全国比＋4.5pt）
肯定的回答　82.0%（県比＋0.1pt　全国比＋1.2pt）





【中学校】「当てはまる」25.5%（県比－1.7pt　全国比＋0.2pt）
肯定的回答　80.4%（県比＋0.5pt　全国比＋1.5pt）

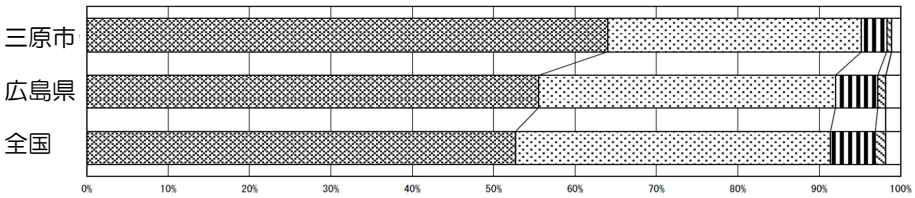


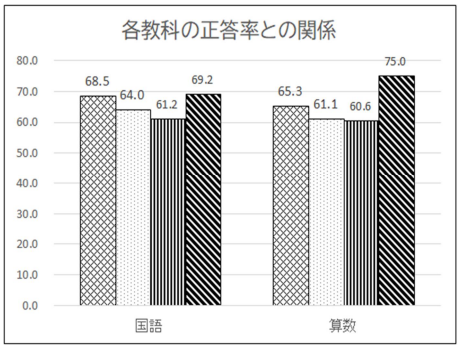


協働的な学び

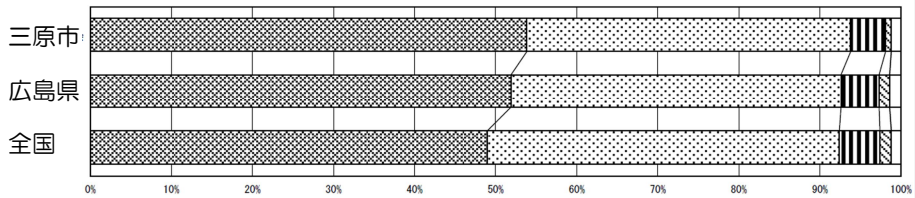
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら解決に取り組んでいますか。

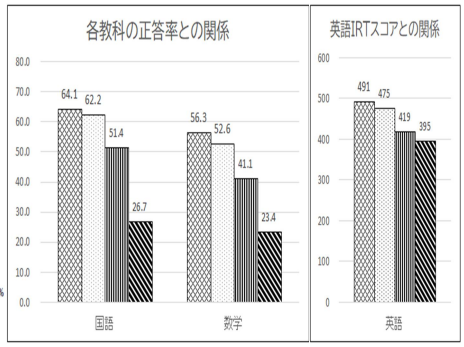
【小学校】「当てはまる」64.0%(県比+8.5pt 全国比+11.3pt)
肯定的回答 95.2%(県比+3.2pt 全国比+3.8pt)





【中学校】「当てはまる」53.8%(県比+1.9pt 全国比+4.8pt)
肯定的回答 93.7%(県比+1.1pt 全国比+1.3pt)





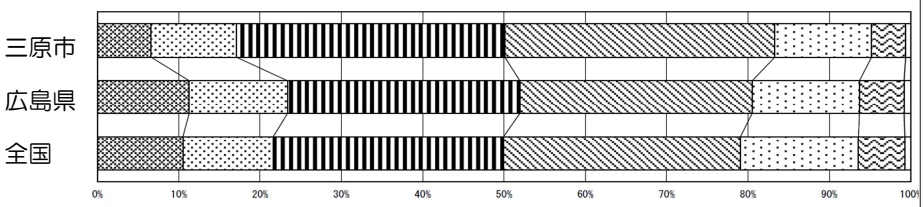
(2) 学習習慣

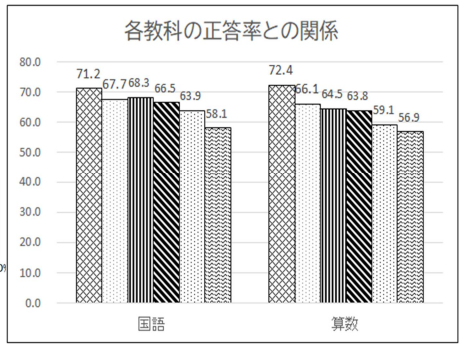
〇家庭での学習時間が2時間以上の児童生徒の割合は、全国平均及び広島県平均より低い。
〇一日の読書時間が1時間以上の児童生徒の割合は、小学校は全国平均及び広島県平均より高いが、中学校は低い。
〇本市の経年比較で見ても、家庭での学習時間、一日の読書時間が減少している。

平日の勉強時間(授業時間を除く)

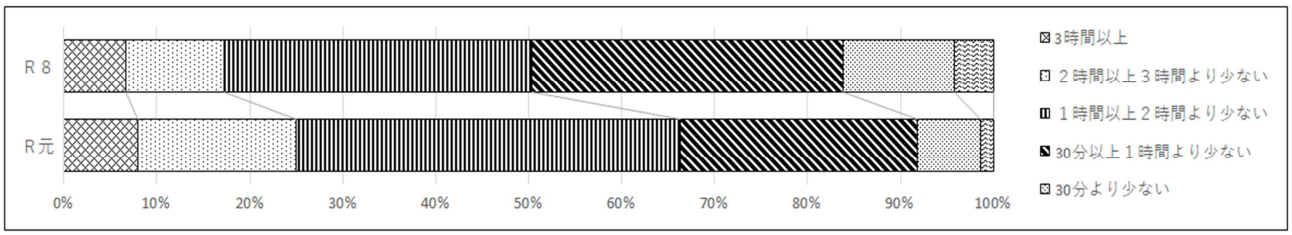
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

【小学校】2 時間以上 17.1%(県比−6.3pt 全国比−4.5pt)
30 分未満 16.1%(県比−2.6pt 全国比−4.1pt)

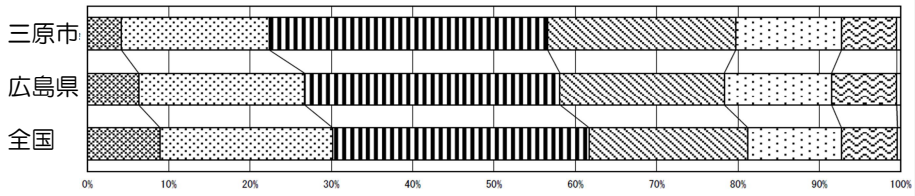


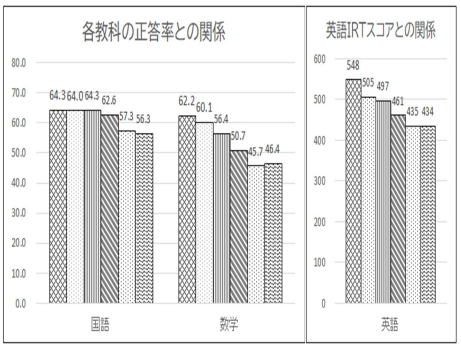


【三原市小学校 経年比較】

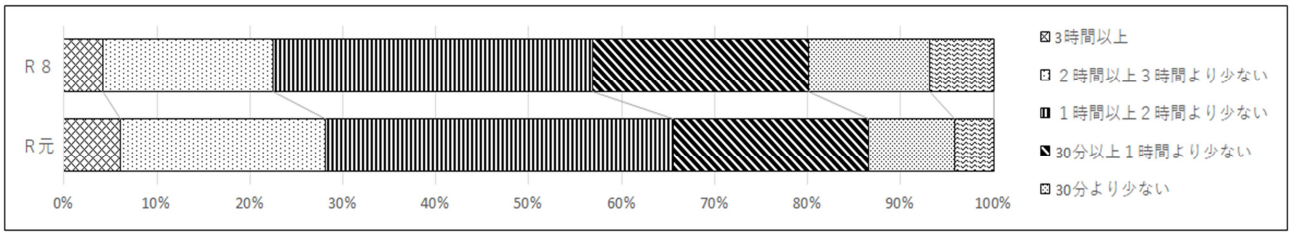


【中学校】2 時間以上　22.4%(県比－4.3pt　全国比－7.7pt)
　　30 分未満　19.8%(県比－1.4pt　全国比＋1.4pt)





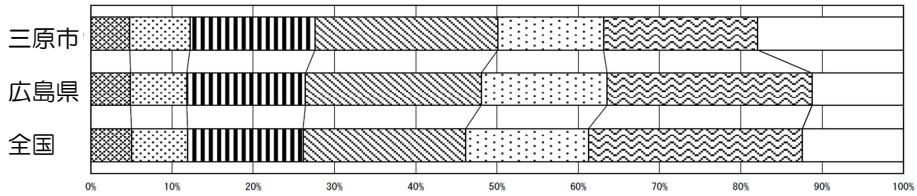
【三原市中学校　経年比較】

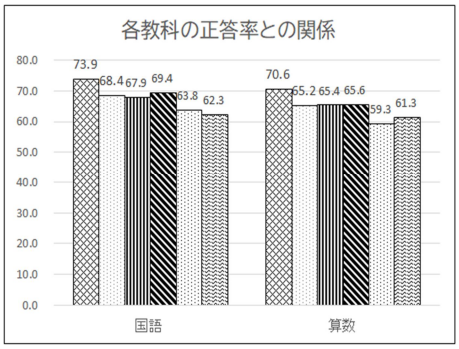


一日の読書時間（教科書は除く）

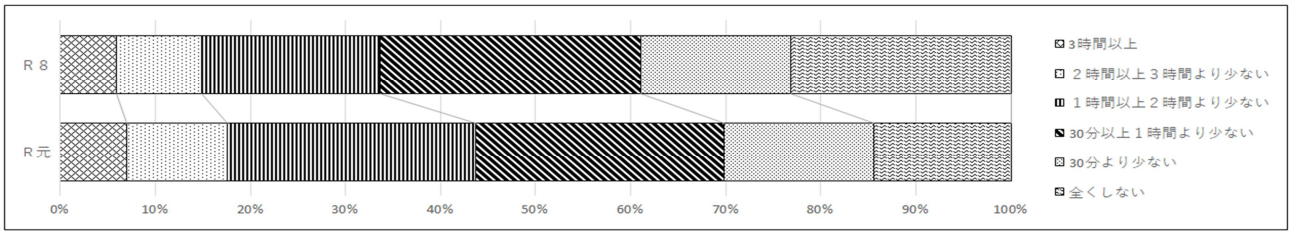
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間読書をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

【小学校】1時間以上　12.2%(県比＋0.4pt　全国比＋0.3pt)
　　10 分未満　32.0%(県比－8.7pt　全国比－9.4pt)

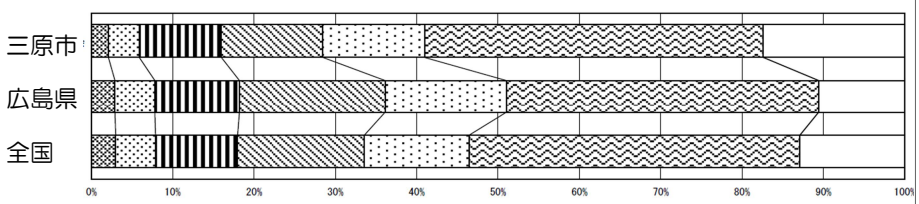


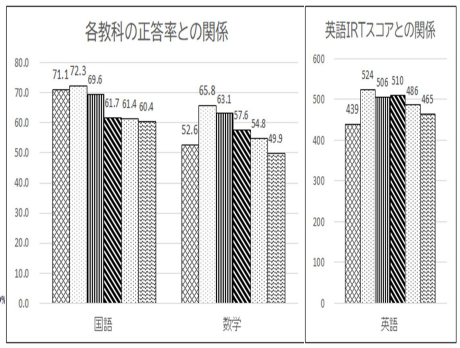


【三原市小学校　経年比較】



【中学校】1時間以上　5.9%(県比－1.9pt　全国比－2.0pt)
　　10 分未満　54.2%(県比＋0.9pt　全国比＋0.6pt)





【三原市中学校　経年比較】

